

多根脳神経 リハビリテーション病院

2025 年度 年報

目次

◆診療部.....	3
◆看護部.....	4
◆リハビリテーション科	6
◆放射線科	8
◆医療生活相談室	9
◆薬 局.....	10
◆栄養科.....	13
◆事務部.....	14
【資格一覧】	15
【学会発表】	17

施設概要

【所在地】

〒552-0011 大阪市港区南市岡 1-1-45

TEL:06-6585-2743 (代表) FAX:06-6585-2048

アクセス

電 車

JR 環状線大正駅または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車
徒歩 10 分

阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

大阪シティバス

なんば駅前(60)天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前(88)天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前(107)弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【施設概要】

病 院 長	青池 太志
開 設 日	2001 年(平成 13 年)6 月
病 床 数	50 床
標 榜 科 目	脳神経内科・リハビリテーション科・精神科・心療内科・放射線科
土地・建物(㎡)	敷地面積 1,578.43 ㎡ 延床面積 3,133.63 ㎡
指定・認定関係	
基 準 関 係	回復期リハビリテーション病棟入院料 1/脳血管疾患等リハビリテーション料(1)/ 連動器リハビリテーション料(1)/外来リハビリテーション診療料
第 三 者 評 価	

(2026 年 3 月現在)

当院は回復期病院であり、急性期加療を受けた後の患者様のリハビリテーションを担っています。対象となる疾患は、脳卒中、脊髄損傷、骨折、変形性関節症の手術後などです。病院名に「脳神経」とあるように、脳卒中などの脳神経系疾患の患者様が多く入院しています(80%程度)。

当院は、基本的な人員(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士)のみならず、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医、脳神経内科専門医、脳神経外科専門医、リハビリテーション認定看護師、呼吸療法認定士、社会福祉士などの有資格者を揃え、各専門職は標準以上の能力を備えていると自負しています。また、当院を退院した患者様のアフターケアとして、必要に応じて、外来や訪問でのリハビリテーションを実施できる体制を整えています。「病院」としての機能は弱い面がありますが、多根総合病院との連携により、患者様の病状に合わせた対応が可能になっています。傑出した特徴があるわけではありませんが、保険診療の範囲で可能な方法は実施できますので、少なくとも「標準的なリハビリテーション病院」とは言えるでしょう。

今後の高齢化社会では、リハビリテーションの必要性はますます高まると予想されます。当院も、「ヒト」と「モノ」の向上をはかり、「地域包括ケアシステム」の一翼を担うことができるように、病棟内外の機能を高めていきたいと思えます。

◆診療部

【部 署 概 要】

当院の特徴は、回復期リハビリテーション(リハビリ)病棟を有し、脳卒中などの脳神経系疾患や大腿骨頸部骨折などの運動器疾患を対象としている。当院の医師の基本的な業務は、患者さんの身体および精神状態を適切に管理し、集中的なリハビリを可能とし、その効果を期待できる状態を維持することにある。さらに、各部署と連携し、リハビリの目標設定、入院期間の調整、退院経路の設定、退院後の環境調整などの治療および療養計画を提示し、患者さんの FIM(機能的自立度評価法)利得や自宅退院率の向上を目指している。

また、診療以外に、医療安全対策、感染対策、防災対策、臨床研究指導(倫理委員会)も行っている。

【診 療・体 制】

当院に入院する患者さんは、多根総合病院の脳神経内科、脳神経外科、整形外科からの転院が主体となっている。他院からの入院については、地域性や専門性を考慮して対応している。常勤医師は3名と少数ではあるが、病棟業務に加え、外来リハビリや訪問リハビリなど病棟外業務も行っている。各医師は、専門性を生かして基礎疾患の治療を行いながら、多職種(医師、看護師、療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士)とのカンファレンスを通じて最適なリハビリ提供を目指している。

【特 色・トピックス】

当院の特色は、休日・祝日も含めて休みなく毎日リハビリを提供しているところにある。目標課題として、先進的なリハビリ医療(リハビリロボット、機能的電気刺激など)の導入、外来リハビリや訪問リハビリの拡充、適応疾患の拡大が挙げられる。

【診 療・部署実績】

当院の診療上の主な目標は、入院患者の日常生活動作レベルの改善と自宅への退院にある。当院の入院患者数や外来患者数、病床利用率、リハビリ実績指数、在宅復帰率など各種指数は、他部門(看護部、事務部、リハビリ科)の報告に記載されている。経営上の目標でもある、「リハビリ病棟入院基本料Ⅰ」に必要な構造指標、過程指標(人員、病棟、リハビリ提供量)と成果指標(入院時重症患者比率、入院時重症患者の回復率、在宅復帰率、リハビリ実績指数)を満たした。

◆看護部

【部 署 概 要】

回復期リハビリテーション病院では、入院患者に対して患者の残された能力を最大限に活かし、日常生活の援助を通して ADL の改善と患者に適した環境への社会復帰を目指している。看護師は、入院中の患者の原疾患の再発予防や合併症の予防管理、慢性疾患のコントロールへの支援を行うと同時に退院後も患者自身、もしくは援助者のサポートのもと疾患をコントロールしていくため必要な情報提供や生活指導を行っている。

また「できる」ことを増やして生活の質を上げるための看護師を中心とするチーム活動を通して他職種と協働し退院支援を行っている。患者が「どこで」「どのように」「なにを大事に生活したいか」という患者の思いを軸に多職種と解決すべき問題点、目標を共有し退院への関りをしていくことを目的に多職種退院支援カンファレンスを行い患者の望む退院につなげる支援を行なっている。

【診 療・体 制】

看護体制

看護部・病棟の 2 部門

病床数:50 床・2 フロア 1 看護単位

病棟看護体制:固定チーム受け持ち制、一部機能別

変則交替勤務:長日勤、2 交替制

夜勤勤務員数:看護師 3 名、看護補助者 1 名

施設基準:看護師 13:1 看護補助者 30:1

回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1

【特 色・トピックス】

1.2025 年度看護部目標

- *病床利用率を維持しつつ、回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1 を維持する
- *患者の機能回復と社会復帰を目指し、各部署とのタスクシフト・シェアを推進する
- *KHS における回復期リハビリテーション病院としての役割を果たし、患者にとっての安全で満足できる入院生活を担保する
- *大阪市西部地区における「きつこう会」の役割を理解し、リハビリ病院看護師としての役割達成のための知識技術の習得を怠らない

2.看護師中心のチーム活動すべてにセラピストが参加する

3.大阪医療看護専門学校学生実習受け入れ

4.タスクシフト・シェアの推進(看護師が行っていた事務業務を事務部門へシフト)

5.看護師勤務体制の変更に伴う時間外時間の減少

【診 療・部署実績】

1.チーム活動報告

- 1)褥瘡・スキンケアチーム…スキンケア予防のための学習会を実施。今後も予防行動の徹底を図り、スキンケア発生・褥瘡発生0を目指す。
- 2)転倒転落予防チーム…患者の状況に応じた転倒転落予防対策ができるように全員の情報共有をするためのツールの活用を開始したが、十分浸透しなかった。ツールが確認できない原因分析・対策を考える。インシデント 0 の提出をふやし、対策を考え事故を未然に防いでいく。今後も療養環境の安全対策をしていく。薬剤師が転倒転落アセスメント評価へ参加。

3)退院支援チーム…毎朝多職種で退院支援カンファレンスを行っているが、効果的なカンファレンスができない事があったため、カンファレンスの方法の見直し、看護師によるファシリテーション技術の活用を指導し実践している。今後も有効なカンファレンスも実践を目指す。家族指導パンフレットは作成しており、積極的に活用していく。

4)感染対策委員会…継続して日常の感染予防への啓蒙をしていく。

5)認知症ケアチーム…マニュアル作成し加算取得は定着してきた。今後「身体拘束解除」を視野に入れた活動をしていく。全スタッフを対象に認知症ケアに関する研修を実施。(認知症の概要・接し方の基本を指導)

6)排尿自立支援チーム…排尿自立に向けた関りをセラピストと共に進めていく。

7)摂食嚥下障害認定看護師を中心に、早期の介入を図っていった。KT バランスチャートの周知ができたので活用をすすめ、食事動作の自立を目指していく。(ST だけでなく OT の積極的介入を目指す)セラピストの吸引手技獲得を今年度も継続して実施していく。

【年間診療報酬上データ】

項目	数値	項目	数値
入院患者数	234 人	新入院重症率	43%
退院患者数	230 人	日常生活改善率	63%
平均入院患者数	44 人	FIM 実績指数	52.9
平均病床稼働率	88.4%	多職種退院支援カンファレンス件数	230 件
平均在院日数	64.2 日		
在宅復帰率	83.2%		

【診療科別患者動向】

診療科	入院(人)	発症から入院まで(日)	平均在院日数(日)	退院(人)
脳神経内科	124	25.1	69.7	124
脳神経外科	56	30.1	70.0	51
整形外科	50	21.7	51.6	52
その他	4	29.2	65.3	3
合計/平均	251	26.5	64.2	230

【医療安全データ】

項目	数値
褥瘡院内発生率	6 件
スキnteア発生率	4 件
インシデント報告件数(全数)	313 件
インシデントレベル その他	43 件
インシデントレベル 0	62 件
インシデントレベル 1	142 件
インシデントレベル II	33 件
インシデントレベル IIIa	32 件
インシデントレベル IIIb	1 件
転倒転落インシデント報告(再掲)	78 件

◆リハビリテーション科

【部 署 概 要】

急性期治療の後、回復期において、医師の指示のもとセラピーを集中的に実施する事が当科の役割です。対象となる患者さんは、回復期病棟の適応疾患である脳血管疾患等の神経系疾患、下肢骨折等の運動器疾患の患者さんが中心です。業務内容は、患者さんの基本動作、日常生活活動(ADL)、コミュニケーション、摂食・嚥下機能等の改善を図るセラピーを実施することです。医師を中心とした多職種カンファレンスで計画された目標に向かって、それぞれの患者さんに応じた柔軟な対応を心がけています。

【診 療・体 制】

当科では、医学的リハビリテーションの専門分野である理学療法、作業療法、言語聴覚療法を実施しています。それぞれ、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が実施します。これら三部門が、回復期リハビリテーションの大きな目的の一つである自宅復帰・社会復帰に向けて、それぞれの技能を駆使しつつ、医師、看護師、MSW、薬剤師、栄養士、他と協力しながら、効果的なチームアプローチを実践しています。退院後のアフターフォローとしては、外来リハビリテーション及び、訪問リハビリテーションを実施し、安心してご自宅で生活できるようにつとめています。

【特 色・トピックス】

- ・回復期治療が必要な患者さんに対して、各部門の専門性を最大限に発揮した治療業務
- ・回復期病棟アウトカム評価で最上位の成果基準の達成
- ・合同カンファレンスへの参加・準備進行
- ・KHSリハビリテーション部としての関連施設との連携
- ・臨床実習生の受け入れ(大阪行岡医療大学、森之宮医療大学、甲南女子大学、大阪保健医療大学、関西医療大学、阪奈中央リハビリテーション専門学校、大阪医療福祉専門学校)

【診 療・部署実績】

2025 年度理学療法
(PT)実施患者件数

	入院	外来	合計
4 月	1,330	59	1,389
5 月	1,400	56	1,456
6 月	1,385	54	1,439
7 月	1,324	52	1,376
8 月	1,242	51	1,293
9 月	1,015	52	1,067
10 月	1,341	55	1,396
11 月	1,349	46	1,395
12 月	1,387	54	1,441
1 月	1,400	44	1,444
2 月	1,316	41	1,357
3 月	1,419	39	1,458
合計	15,908	603	16,511

2025 年度作業療法
(OT)実施患者件数

	入院	外来	合計
4 月	1,028	38	1,066
5 月	1,152	37	1,189
6 月	1,123	38	1,161
7 月	977	28	1,005
8 月	862	36	898
9 月	788	33	821
10 月	1,175	32	1,207
11 月	1,073	27	1,100
12 月	1,111	29	1,140
1 月	1,207	23	1,230
2 月	1,172	23	1,195
3 月	1,291	18	1,309
合計	12,959	362	13,321

2025 年度言語聴覚療法
(ST)実施患者件数

	入院	外来	合計
4 月	879	44	923
5 月	1,029	38	1,067
6 月	970	35	1,005
7 月	806	33	839
8 月	718	38	756
9 月	653	31	684
10 月	913	37	950
11 月	824	31	855
12 月	926	30	956
1 月	937	26	963
2 月	958	23	981
3 月	1,074	21	1,095
合計	10,687	387	11,074

◆放射線科

【部 署 概 要】

患者様に対し安全かつ丁寧な対応を行い、効率的な仕事運びを目指す
 患者誤認防止に努める
 医療機器の保守管理を徹底する

【診 療・体 制】

東芝製 X 線発生装置(現:キャノン)を1台設置しており、FCR システムにて画像の提供を行っている。
 撮影業務は週3日で、月曜日・水曜日・金曜日に対応している。それ以外の曜日は必要に応じて撮影を行っている。
 専属の技師が1人在籍しており撮影を行っているが、総合病院の技師も撮影の対応を行っている。
 一般撮影以外の CT 検査、MRI 検査は、総合病院と連携をとっており、総合病院放射線科に検査を委託している。

【特 色・トピックス】

リハビリテーション科及び脳神経内科、整形外科より依頼を受け、一般撮影業務を行う。主に入院中の患者様の胸部・腹部・骨撮影を行っている。
 撮影した画像は総合病院と連携しており、総合病院の画像サーバーに保管される。電子カルテも同様に総合病院と連携しているので、画像は電子カルテより見ることができる。
 他医からの画像 CD データの取り込みを総合病院放射線科に依頼し、CD の画像データをサーバーに保存している。
 年1回、「診療用放射線の安全利用のための研修」を e-learning にて実施している。
 2023 年 12 月に X 線発生装置を更新した。(KX0-50SS:キャノン製)

◆医療生活相談室

【部 署 概 要】

全入院患者ひとりひとりに担当者が付き、入院時から患者・家族と継続的な関係を構築し、必要に応じて援助出来る体制を整えている。系列・他病院からの入院相談を経て退院後の生活の再構築に至るまで一連の退院支援を行っている。

【診 療・体 制】

社会福祉士 2 名。入院患者は全担当制、相談専門職として関わっている。

【特 色・トピックス】

入院相談(系列、他病院)
 入院時インテーク(初回)面談
 経済問題援助
 転院相談(療養型病院、介護老健保健施設など)
 転居相談(引越し、特別養護老人ホーム、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅への入居)
 退院援助(他機関との連携、退院前カンファレンスや家屋調査の調整)
 独居患者の諸対応(必要時居宅訪問、生活必需品の準備、金銭管理の補助)
 リハビリカンファレンス参加
 外来患者対応
 病棟ミーティング、退院支援カンファレンスへの参加
 ベッドコントロール会議への参加

◆薬 局

【部 署 概 要】

- ・病院内使用薬剤管理全般(院内処方、持参薬、常備薬)について安全で効果的な使用が出来るよう業務を行っている
- ・服薬指導では、自宅へ帰った際に適切に自己服薬管理が出来るよう指導を行っている
- ・医療チーム参加と医薬品の安全管理部門として病棟業務を行い、適切な薬物治療が行えるよう関わっていく
- ・院内ネットワークを通じて安全性情報、薬剤情報の公開・情報共有を行っている
- ・コンピュータスキルを生かし、電子カルテシステム・院内ホームページの管理等を行っている
- ・処方の代行修正を行っている
- ・法人4病院で協力して薬学生実務実習を行っている

【診 療・体 制】

- ・薬剤供給
医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を提供する。薬剤購入費の圧縮・廃棄薬剤の削減を目指す
- ・調剤業務
自動錠剤分包機等を使用し持参薬管理を含め、院内調剤の一包化を実施している
- ・服薬指導
服薬指導の充実をもって患者満足度の向上を図る。使用薬剤の全般的な管理と電子カルテ情報の有効な使用をめざし、使用手順を確立していく。退院時の薬局サマリー付与を行う。
- ・投薬管理
副作用発現チェック体制・ハイリスク薬管理体制の強化を行う。ポリファーマシー解消を推進し、薬剤総合評価調整加算の取得を行う。
- ・業 務
薬局アクシデント件数を0にするべく業務改善をおこなう。
- ・情報管理
医療安全の推進・院内感染防止・褥瘡対策について、情報共有・伝達を推進する。(各2回/年)
- ・実習生の受け入れ
病院実務実習を通して、薬剤師の確保と指導薬剤師のレベルアップを目的とし、実習受け入れ業務を整備する。
- ・電子カルテ運用
電子カルテシステムの効率的な使用が出来るよう、補助システムの構築を行う。
処方代行入力を行い医師の診療補助を行う。

【特 色・トピックス】

- ・調剤業務:入院内服処方箋枚数 473.7 枚/月
- ・注射業務:入院患者処方箋枚数 26.6 枚/月
- ・後発品置き換え率:94.0%(2025/4月~2026/3月)
- ・服薬指導:「薬のしおり」「お薬手帳」の活用、持参薬管理、退院時薬剤管理サマリーの発行
- ・感染対策:感染レポート作成、抗菌薬使用届管理
- ・病棟業務:配薬カート使用・お薬カレンダー使用推奨・段階的自己管理
持参薬管理(薬局にて管理し、7日分ずつ投薬)
薬剤総合評価調整加算 10件

・医療安全:「医薬品・医療機器等安全性情報」「PMDA 安全性情報」「医療事故情報収集事業 医療安全情報」の院内伝達・情報共有 「医薬品・医療機器等安全性情報」No.418～427「PMDA 安全性情報」No.72～73
「医療事故情報収集事業 医療安全情報」No.221～234
・医療安全講習会(薬局主催)
2025.3.2 医療安全・感染対策講習会 「麻しんについて」

【診 療・部署実績】

処方箋枚数・調剤件数						
	入院内服処方箋			入院注射	外来注射	外来処方箋
	枚数	件数	剤数	枚数	枚数	枚数
2025年4月	519	1306	1557	9	6	22
5月	503	1215	1437	17	3	16
6月	500	1310	1503	19	4	22
7月	482	1409	1682	9	2	16
8月	509	1435	1724	61	2	14
9月	359	1099	1300	18	4	16
10月	527	1587	1807	37	4	22
11月	488	1424	1611	46	2	13
12月	539	1550	1711	24	3	20
2026年1月	407	1234	1399	27	4	15
2月	434	1200	1363	32	1	14
3月	417	1282	1460	20	4	18
合計	5684	16051	18554	319	39	208
月平均	473.7	1337.6	1546.2	26.6	3.3	17.3

薬剤管理指導				
	服薬指導人数	服薬指導件数	カンファレンス記録	代行修正
2025年4月	63	62	116	19
5月	67	62	106	16
6月	60	56	97	19
7月	68	64	115	17
8月	55	55	87	16
9月	45	49	72	12
10月	73	58	91	21
11月	66	60	61	15
12月	75	70	72	21
2026年1月	64	60	81	15
2月	64	58	84	13
3月	67	62	97	16
合計	767	716	1079	200
月平均	63.9	59.7	89.9	16.7

◆栄養科

【部 署 概 要】

回復期の栄養管理を目的として、入院から退院まで各個人の活動量や病状に配慮した適切な食事提供に努めている。また、嚥下機能に応じた食形態の選択や片麻痺に対応した食具の選択など多職種と連携して患者様をサポートすると共に、シームレスな栄養管理ができるよう退院前に栄養指導や退院先施設への情報提供を行っている。

【診 療・体 制】

管理栄養士 1 名

*給食業務は日清医療食品に委託(栄養士 1 名、調理師 2 名、調理員 3 名)

【特 色・トピックス】

- ・大阪病院学会で「安全な嚥下訓練食の構築に向けた取り組み」を発表した
- ・シームレスな栄養管理を目指して総合病院、第二病院と栄養剤の集約を図ったことで納入価格を下げることができた
- ・2 年目新人研修
- ・施設間ローテーション/脳リハ→総合、老健→脳リハ異動

【診 療・部署実績】

《月別食事提供数》

	一般食	特別食	経管栄養	総食数
4月	1,885	1,795	267	3,912
5月	2,036	1,904	227	4,167
6月	1,784	2,318	41	4,143
7月	1,450	2,388	110	3,948
8月	1,366	2,321	196	3,883
9月	1,195	1,753	129	3,077
10月	1,522	2,155	291	3,968
11月	1,427	2,270	311	4,008
12月	1,176	2,535	436	4,147
1月	1,266	2,482	451	4,199
2月	1,729	1,882	312	3,923
3月	1,865	2,009	368	4,242

《行事食》

4月	菜の花と海老ちらし 豆ごはん
5月	五目ちらし
6月	助六寿司 季節のフルーツ(メロン)
7月	七夕そうめん うな井 季節のフルーツ(桃)
8月	穴子ちらし
9月	海鮮ちらし 季節のフルーツ(梨)
10月	栗ご飯 お月見まんじゅう
11月	海鮮ちらし 季節のフルーツ(柿)
12月	クリスマスケーキ 年越しそば
1月	お節料理
2月	助六寿司
3月	ひなちらし寿司

◆事務部

【部 署 概 要】

事務部医事課は、窓口業務、請求業務、収支・未収金管理、予算立案などの事務部門及び設備管理、防火・防災管理、業務委託管理などの施設部門を担当している。
施設基準の正確な把握、適正な維持、診療報酬、介護報酬をより理解し、正確で迅速な請求業務を行い、請求漏れのないように注意している。

【診 療・体 制】

主な業務

外来入院業務(受付・会計・コンピューター入力・レセプト業務・請求書作成・電話交換業務)
訪問リハビリ業務(指示書依頼・レセプト業務・請求書作成)
各種委員会開催、立入検査対策、施設基準遵守、各部署と連絡調整、苦情処理、
消防訓練対応、予算立案達成、法人内施設との連絡調整、院内各部署との連絡調整、
設備管理(院内掲示物・防災センターと協力して設備機器の管理等)

【特 色・トピックス】

防災計画に基づき、消防訓練を年2回実施済み。

【資格一覧】

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:診療部
役職・氏名	資 格	
院長・青池太志 (2023.01～)	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医	
副院長・奥田佳延	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医	
(非常勤)片田珠美	精神保健指定医	

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:看護部
人 数	資 格	
1 名	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会認定回復期リハビリテーション看護師	
1 名	3学会合同呼吸療法認定士	
2 名	医療安全管理者	
1 名	摂食・嚥下障害看護認定看護師/特定行為に係る看護師	
1 名	下部尿路機能障害の治療とケア研修会	
1 名	認定看護管理者	

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:リハビリテーション部
人 数	資 格	
1名	回復期セラピストマネージャー	
2名	3学会合同呼吸認定療法士	
2名	福祉住環境コーディネーター2級	
1名	LSVT BIG	
1名	LSVT LOUD	
15名	実習指導者講習会修了者	

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:薬 局
人 数	資 格	
1 名	実務実習指導薬剤師	
1 名	研修認定薬剤師	
1 名	老年薬学認定薬剤師	
1 名	介護支援専門員	
1 名	初級システムアドミニストレーター	

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:栄養科
人 数	資 格	
1 名	病態栄養専門管理栄養士	

施 設:	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署:医療生活相談室
人 数	資 格	
1 名	介護支援専門員	

【学会発表】

【学会発表】	施設:	多根脳神経リハビリ テーション病院	部署:	リハビリテーション部
会名称	第 23 回大阪病院学会			
発表テーマ	多職種連携アプローチを実践した、在宅療養中の前頭側頭葉変性症の一症例について			
日時	2025 年 11 月 9 日	発表者	神園歩 前田智子	
場所	大阪		谷本菜子 宮脇智 場工美由紀	